

周知のとおり、森友学園問題に関して財務省の国会に提出した公文書の改ざん問題、自衛隊の南スーダン、イラクへのPKO派遣部隊における日報の存在についての隠蔽、虚偽報告問題、裁量労働制をめぐるデータの問題などが相次いで発覚し、今、私たちの国の国政は、その根幹をめぐって、大揺れである。

財務省の公文書改ざん問題に限ってみても、こんな改ざんがなく、改ざん前の状態で明らかになっていたとしたら、あるいは、改ざんがあっても、その改ざんのあったことが去年の総選挙より前にわかっていたら、総選挙の際に、自民党など与党に投票した人は、やっぱり与党に投票したと言えるだろうか？そう考えると、この問題は、民主主義の根幹に関わる重大問題だということが理解しやすいのではなかろうか。

国民の「知る権利」は、民主政の死命を制する極めて重要な権利である、といわれる。基本的人権の中でも優越的地位を占める、などとも。

「民主政治は国政について十分な理解と知識をもった啓発された市民の存在を必然の前提とする。したがって民主制下においては国民の1人1人が自らに多大の影響を及ぼす重要な政策、政治について知る機会（権利）が最大限に保障されなければならない。報道の自由は憲法21条の保障するところであるが、それはこのような国民の知る権利に奉仕するものとして、同条の中でもとりわけ枢要な地位を占めるものである。」（西山記者事件における弁護側の主張。裁判所もこの点自体は、肯定していると理解できる。）などと指摘されているところを振り返ると、誠に説得力のある議論であると考えてるのは、筆者だけではないだろう。

国民が国政についての判断をする前提となるべき情報が、改ざんされたり、隠蔽されたり、ことさらに歪曲されたりすることは、民主政治の根本中の根本が、破壊されていることといって過言ではなかろう。

「安倍政権では、昨年の南スーダン国連平和維持活動（PKO）派遣部隊の日報問題隠蔽や、今年の裁量労働制をめぐる不適切なデータ問題も明らかになっています。隠蔽と改ざん、不正がこの政権の本質ということになる。」という指摘がされているが、部署が違えば様々な所から、同じ種類の、隠蔽、改ざん、不正が出て来るのだから、その違う部署を、全部統括している、最高責任者、すなわち、内閣総理大臣安倍晋三君の本質が、隠蔽、改ざん、不正にあるということなのではないだろうか。

そして、内閣総理大臣が、本質的に、民主政治の根本中の根本を破壊している、ということは、民主政治、民主主義と相容れない、ということになる。政治が私たちの物であること、民主政治、民主主義を望む限り、こうした内閣総理大臣は、一刻も早く、その座から追い落とさなければならない。

こうした政治的問題をどう見るかという見方の基本として、憲法学者で一橋大学名誉教授の杉原泰雄先生は、筆者なりに要約すると、ロッキード事件の頃に著された岩波新書「国民代表の政治責任」において、国民代表の政治責任は、民事、刑事の法的責任の問題が、主には、後からどう償わせるか、ということである（例外もあるが）とは違い、悪政から国民の利益を守る、という予防に主眼があるので、限りなく疑わしいなら、既にアウト、もう選良とは認めない、で良い、と述べておられる。

安倍晋三首相は、東京オリンピック・パラリンピックの招致の際にも「放射能は完全に

ブロックされている」などと、見え透いたことを述べていたことが、今でも強く印象に残っているが、筆者は、総理大臣はもちろん、国会議員も辞めさせて良いと考える。

本人が、自身で「私や妻が関係していたら間違いなく総理大臣も国会議員も辞める」と述べていたのだから。

憲法と戦争できる国作りの問題についても、「国政を、自分とお友達のために、私物化する、そういうよごれた手で、憲法をよごすな。」ということを強調して良いと思う。戦争が、多くの人々に多大な不幸と悲慘をもたらす一方で、ごく一握りの人を儲けさせることはよく知られていることである。一握りのアベトモの利益のために、汚れた手で、憲法を汚すな、国民と世界の人々に不幸と悲慘をもたらすな、と強調したいと思う。

今、我々、現代史という歴史を生きている者たちは、現代という時代の真ん中で、後世の人々への責任、日本史への責任を負っていると考えられる。

「平然と嘘をついて国民を騙して国政を私物化し続けてきた総理大臣は、ちゃんと辞めさせる。いつまでも居座らせない。」

「これ以上、dishonest ABEに、不正直な言動をとらせない。」

今でしょ、我々が日本史に責任を果たすのは。

注 米国史上もっとも偉大な大統領と言われるリンカーンは、「honest ABE(正直エイブ)」と呼ばれたという。

これに対して、dishonest ABEのABEは、「エイブ」とは違う読み方をすべきことになる。